

お わ り に

血統書つきのサラブレッドの名馬が、永い休養明けのレースで、脚質をガラッと変えた走りで好走し、ファンをあっと云わせることがよくある。

今回の発刊物もこれに似て、過去3年間の休養から、タイトルも改め、脚質も自在型に変えて復活し、その評価を世に問うことになった。

因みに、今回の合併号の特色は、新しくリーダーになった大和所長の意向を汲んで、委員の中野教授が、大学や研究所の未来像をイメージして図案化した表紙と、大学改革後に起る社会的な評価や要請に応える為に、編集の方針を幅広いものにしたことである。

嬉しいことに、長田、宮島両教授のこれまでの研究、教育の集大成を、定年退職記念記事として掲載出来たことと、3代目の所長だった正木教授のライフワークでもある、「子供の健康」に関する玉稿が、この合併号の花として、光彩を放っていることである。

尚、私の拙いエッセイの一項が、10年後位に持ち上がるであろう、深沢キャンパスの「総合スポーツ科学研究センター（仮称）」を中心とした、スポーツ運動施設の改築モデルのヒントにでもなればと思っている。

いずれにしても、今回の合併号は、大和リーダーを軸として、研究所々員や編集委員が、スクラムをがっちり組んでのチームプレーの傑作であると自己評価している。

今後、これを足掛かりにして、みんなから信頼され愛される雑誌になるよう、願って止まない。

編集委員 北川 勇喜